

木材工学特論 (2単位)

担当者氏名 小林 純

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

木材工学に関連した論文の理解・作製に必要な専門用語や英語表現を習得するために、和文論文と英語論文の講読を行う。また、論文の作成にあたって必要となる問題点の把握・考えの整理と発送・実験計画に関する思考技術についての紹介・解説と演習を行う。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

QC 親和図法 連関図法 系統図法
マトリクス図法 アロー・ダイアグラム法 PDPC 法

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	和文論文講読(1)	自分の修士論文テーマに関連しそうな論文を自分で選び、その内容をプレゼンテーション形式で発表する。	一般的な論文の形式を理解すると共に専門用語の理解や表現を身につける。
2	(2)		
3	英文論文講読(1)		
4	(2)	従来の QC には、パレート図、特性要因図、管理図、ヒストグラムなどがあり、解析と管理、品質の改善のためにつかわれているが、それに加えてキーワードに示したような方法について解説・演習する。	各自の論文テーマについて演習内容を適用してみる。
5	(3)		
6	思考の技術 (1)QC		
7	(2)親和図法		
8	(3)連関図法		
9	(4)系統図法		
10	(5)マトリクス図法		
11	(6)アロー・ダイアグラム法	論文テーマに関するキーワードをできるだけ沢山考えておくこと。	
12	(7)PDPC 法		
13	まとめと演習(1)		
14	まとめと演習(2)		
15	まとめと演習(3)		

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

木材科学ハンドブック／岡野 健,祖父江信夫 編集／朝倉書店 (2006)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

木材工学辞典／日本材料学会 木質材料部門委員会 編

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

授業や演習の内容に関するレポート

◆オフィスアワー

授業終了後の 2 時間ほど

◆その他受講上の注意事項

誤解できなくて分かりやすく、しかも簡潔な文章を書くために、日本語の作文技術に関する本を自分で探して最低 1 冊は読んでおくこと。